

2015 年度第 63 回 日本学連総会 議事録

開催日時：2015 年（平成 27 年）10 月 3 日（土）

開催会場：富士見高原リゾート内体育館（長野県諏訪郡富士見町）

－議題－

1. 議長選出
2. 昨年度決算報告、今年度中間報告
3. 目安箱について
4. インカレ一般クラスのすみわけについて
5. インカレリレー女子選手権について
6. インカレロング女子選手権競技者数について
7. 渉外に関する注意
8. 各部局報告
9. 地区学連報告
10. 次回総会について

－出席者－（敬称略）

氏名	役職	学校名
池田 純也	2015 年度インカレミドル・リレー実行委員長	京都大学卒
五味 あずさ	幹事長	金沢大学
村瀬 貴紀	副幹事長	筑波大学
大久保 宗典	会計	東京大学
築地 孝和	事業部長	神戸大学
田中 悠	広報部長	慶應義塾大学
新粥 文哉	事務部長	千葉大学
細 正隆	普及部長	東北大学
橋場 良太	渉外部長	東北大学
田口 茂樹	会計監査	岩手大学
田中 基成	会計監査	筑波大学
藤田 麻矢	北東学連幹事長	岩手大学
小泉 知貴	関東学連幹事長	慶應義塾大学
石山 良太	東海学連幹事長	名古屋大学

松浦 友佑	関西学連幹事長	大阪大学
下江 裕貴	中四国九州学連幹事長	広島大学

議事録作成：田中 悠(広報部長・慶應義塾)

－出席校－ (31)

岩手、岩手県立、東北、福島、北海道、宮城学院女子、金沢、新潟、お茶の水女子、慶応義塾、相模女子、実践女子、千葉、十文字学園女子、筑波、津田塾、東京、東京工業、東京農工、日本女子、一橋、横浜市立、横浜国立、早稲田、静岡、椋山女学園、名古屋、大阪、京都、京都女子、奈良女子

－委任状－ (1)

茨城

この議事録において、特に断りが無い限り

学連 日本学連

加盟員 日本学連の加盟員

の意味で使用することとする。

時間の無い方は各項目の (i)背景、(ii)議論の概要、(iii)結論 をお読み頂きたい。

1. 議長選出	
－発言内容－（敬称略）	
五味	平成 27 年度第 1 回総会を始める。出席大学数が規定を満たすためこの総会は成立する。議長選出を行うが、立候補してもらえる大学はあるか。
久野	千葉大学の久野です。
五味	千葉大学の久野氏が議長を務めることを承認する方は拍手をお願いしたい。では承認としたい。

2. 昨年度決算報告、今年度中間報告	
－発言内容－（敬称略）	
久野	昨年度決算報告と今年度中間報告を行う。担当の方はお願いしたい。
大久保	今年度日本学連会計、東京大学 4 年の大久保です。色付きのセルが入っている方[決算報告]の紙を見ていただきたい。ここに書いてある通りだが、日本学連の主な収入項目としては、大きく分けて加盟金、賛助金、インカレの黒字と地図収入がある。※1 について、単価 2000 円の加盟金を集めると 2000 円の倍数になっていないとおかしいという指摘があるかもしれないが、これは追加登録費の 200 円が関係してくるものである。次に、昨年度インカレミドル・リレーの黒字返金は 90 万円程度で、昨年暮れに振り込みがあった。支出に関しては、大きく分けてインカレの貸付金、学連の各部局の活動費、技術委員会の活動費、幹事会の活動費と事務局の経費等があり、全体をざっと見ると 50 万円程度の赤字である。※3 のユニバー補助に関して、これは昨年度から毎年 15 万円ずつを積み立てて、2 年に 1 度 30 万円を出すという方針になっていて、昨年はユニバーのための 30 万円が支出されたということである。活動報告書作成費の欄について、2 年に 1 度渉外の方に配られるため、1 年ずつ 25 万円を積み立てて 2 年に 1 度 50 万円を支出することになっている。その他は、昨年度は幹事会交通費や宿泊費が高かったというのがあったが、その他特に言うことは無い。特筆すべき事項としては、昨年度に学連が JOA に加盟したため、その加盟金として 50 万円を支出したことが挙げられる。今まで話した色付きの資料について何か質問はあるか。（→質問なし）特に無いようなので、続いて色のついていない資料[中間報告]を見ていただきたい。こちら、表のつくりとしては先程の資料とほとんど変わらないが、中間報告であるため払っていないまたは払われていない部分が多い。今年は、加盟金が後請求なのでこれから払ってもらうことになる。その他は、インカレの黒字が 135 万 9195 円あった。支出について、インカレミドルには運営用の資金を貸し付けるが、通常インカレロングでは行なってこなかった。今年は実行委員会からお願いがあり 50 万円を支出した。先ほども言ったが、加盟金の請求が事務局からあったと思うので、各地区学連幹事長の方は各学連会計の方に伝えていただきたい。中間報告の方で何か質問はあるか。

久野	特に無いようなので、決算の承認に移りたい。承認される方は挙手を願いたい。 (→31 大学承認) では、賛成多数で承認とする。
----	---

3. 目安箱について	
—背景— 幹事会で取り上げることが難しい加盟員の直接の意見を集めるため、目安箱の設置が 2014 年度第 3 回幹事会で決定された。	
—発言内容— (敬称略)	
久野	目安箱について、担当の方はお願いしたい。
村瀬	インカレスプリントの時に気づいた人もいるかもしれないが、会場に目安箱を設置した。現在は各校渉外を通じて加盟員の色々な意見が寄せられるが、個人が自由に学連に意見を言えるように、インカレや学連後援大会で目安箱を設置して積極的に活用していきたいと思っている。明日のインカレロングの時も目安箱を設置するので渉外の方は、自由に意見を投稿できる目安箱というものがあるということ、加盟員に伝えてほしい。報告は以上である。

4. インカレ一般クラスのすみわけについて	
<p>－背景－</p> <p>学生の競技レベルに応じて、適切に A, B クラスを選んでもらうことで本来の一般 A クラスに相応しいレベルを担保する。B エリート層のモチベーション維持を図り且つ、一般 A クラスが易しすぎるといふ不満を解消する。以上の目的を果たすために、インカレ一般クラスのすみわけを明確にすることが提案され、すみわけのためのガイドラインの整備を幹事会が進めている。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>幹事会より提示されたガイドライン案に対して、質疑応答を行った。</p>	
<p>－結論－</p> <p>ガイドライン案に関して加盟員からも意見を出してもらい、特に意見が無かった場合、幹事会として現在の形のガイドラインを提示する。</p>	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
久野	一般クラスのすみわけに関して、担当者はお願いしたい。
五味	<p>幹事長の五味です。インカレ一般クラスのすみわけに関するガイドライン案という資料を配布したので、それに目を通してほしい。インカレの選手権クラスではない、一般 A クラスと B クラス、ロングで言えば L クラスと S クラスの出走者をすみわけしようという案が、インカレミドル B エリート廃止に伴い出てきた。それに関して、幹事会側からこういった競技レベルの人は B クラスを走った方が良いのではないかというガイドラインを出すことが決まった。具体的には、地区学連のセレクションでボーダーの人(セレクション不通過者で最も順位の高い人)を 100%として、それに対してタイムが 150%以内であるという人がインカレの上級クラス(A クラス)に出走するレベルに相当している、という基準を幹事会で設定した。A クラスは上級者のクラスであること、中級者のクラスもインカレには用意してあって、中級者相当のレベルならば中級者クラスに出走するべきだ、ということ加盟員の皆さんに認知してもらいたい。このガイドラインは規約ではないので、皆さんに承認を取るものではなく、幹事会として提示するものであるが、このガイドラインをより良いものにするために皆さんから意見を聞きたい。今これを正式に出すということではなく、現段階ではガイドライン案であるが、インカレミドルの申し込みがあるまでに正式なガイドラインとして提示したいと思っている。このガイドライン案に対して、意見または質問のある渉外の方はいるか。</p>
有賀	早稲田大学の有賀です。具体的に、どうして 150%という基準にしたのかを教えてください。
五味	<p>幹事会の議事録を見たらわかると思うが、地区学連セレクションのボーダーを基準にしたというのは、セレクションボーダーの人がインカレ一般 A クラスのトップを走る選手だからである。そのトップの人に対して相応のレベルであるということが同じクラスを走る人には求められるということになる。幹事会では 200%という数字も考えたが、ボーダーの倍以上タイムがかかっていると、同じ A クラスを走る実</p>

	力には相当しないという結論に至った。150%の基準を、過去の地区学連のセレクションに当てはめて、具体的な数字を計算したところ 150%が妥当であると判断した。
小泉	ただ、あくまでこの数字は基準であり、各学連で数字を変えた方が良い等といったことはあると思う。学連として提示する数字は 150%ということで、各地区学連で修正可能ということである。
五味	他に質問、意見等はあるか。
小池	大阪大学の小池です。すみわけられた後のクラスの難易度はどうなるのか。Aクラスがより難しくなるのか等。
五味	難易度というのは、幹事会が決めることではなく、実行委員会の方に申し送りをする ことなので幹事会の立場で難易度がどうなるかについて明確なことは言えないが、インカレミドルBエリート層が今度から一般Aクラスを走ることになるので、Aクラスの難易度は今までよりは上がるかと思う。より上級者相応のコースが提供されるかと考えられる。
池田	今年度インカレミドル実行委員長の池田です。今回幹事会で設定しているガイドラインが実際に提示されたとすると、恐らくAクラスとBクラスで上級者と中級者に分かれると思うので、実行委員会側としてはそのレベルに応じたコースを提供するつもりである。ただ、初年度のため皆さんが求めるような難易度になるかどうかは分からないが、少し例年よりは調整を加えようと考えている。
小池	そうすると、Bクラスの難易度も上がるということで良いか。
小泉	現状はAクラスの申し込みが多く、下位層が完走できるようなコース設定となっているが、なるべくその下位層にBクラスに移ってもらい、自分のレベル相応のクラスを走ってもらいたいという意図がある。だから、具体的に難易度が上がるかどうかは分からないが、そのレベルの層の人たちが走って競えるコースになるようお願いするという形である。
小泉	分かりました。
五味	このガイドライン案を大学に持ち帰ってもらった際、加盟員から意見があるかもしれないので、今回総会后このガイドライン案に関して渉外メーリスを流す。その際に記載する締切りまでに意見を出してもらいたい。もし特に意見が無かった場合、幹事会から出すガイドラインとして、このガイドラインを提示することとする。そのガイドラインが提示された際には、渉外の方には加盟員に対する周知をお願いしたい。

5. インカレリレー女子選手権について	
<p>ー背景ー</p> <p>昨年度女子リレー選手権は3区間統一距離のコースパターンであったが、今年度女子リレーに関して、実行委員会としては2走の短いコースパターンを提供することが可能と考えている。</p>	
<p>ー議論の概要ー</p> <p>インカレリレー女子選手権について、2走短縮コースが良いのか、3区間統一距離のコースが良いのか決議を行った。</p>	
<p>ー結論ー</p> <p>インカレリレー女子選手権について、学生としては2走短縮コースを希望するということで、実行委員会の方に申し送りする。</p>	
<p>ー発言内容ー（敬称略）</p>	
久野 五味	<p>インカレリレー女子選手権について、担当の方はお願ひしたい。</p> <p>今年度インカレリレーでは女子選手権の2走を短縮するコースの提供も可能であるという話をいただき、学連として短縮コースが良いのか、3区間統一距離のコースが良いのかというアンケートを各加盟校に行った。アンケートの結果としては、23大学からアンケートの回答をもらい、23大学中2走の短縮を希望する大学は19校、統一コースを希望するという大学は4校という結果になった。意見、質問等あればお願ひしたい。また、アンケートに回答していない大学で、意見があればこの場で言ってもらうのも良い。（→特になし）特に無いようなら、アンケートに回答していない大学もあるようなので、ここでもう一度、2走短縮が良いのか、3区間統一が良いのかを聞き、その結果を実行委員会の方に申し送りしたいと思う。ひとまず、アンケート結果の内容を大まかに説明する。2走の短縮を希望する大学の意見としては、人数の少ない大学や、1年生がエリートを走る大学でも、エリートリレーを走り切れるコースになる可能性が高くなるといった意見や、競技時間オーバーの大学が減るのではないかという意見、また競って面白い展開になるのではないかという意見があった。3区間統一を希望する大学の意見としては、インカレリレーは総合力を問うものだと思うので、2走を短縮するのは不適切ではないかという意見があった。決議をする前に、質問、意見があればお願ひしたい。（→特になし）</p>
久野	<p>では、採決の方に移りたい。2走短縮コースに賛成の大学は挙手をお願ひしたい。（→27大学挙手）3区間統一コースに賛成の大学は挙手をお願ひしたい。（→4大学挙手）（但し1大学は準加盟で決議権なし）では、2走短縮コースということで、実行委員会の方に申し送りをする。</p>

6. インカレロング女子選手権競技者数について	
—背景— 現在、女子ロング選手権の競技者数を40人から30人に削減する幹事会案が出されている。	
—議論の概要— インカレロングの女子選手権の競技者数を40人から30人に削減する案について議論を行った。意見がまとまらなかったため、今回の総会で60:30案について決議をすべきか、それともさらに議論を深めて次回総会で決議をするべきかどうかを決議した。	
—結論— 今回の総会では、インカレロング競技者数の60:30案について決議をしないこととなった。次回総会でインカレロング競技者数を60:30にするのか、あるいは他の数字、他の決め方にするのかについて決議をし、その時に同時に規約の文章の承認も取ることが想定される。	
—発言内容—（敬称略）	
久野	インカレロング女子選手権競技者数について、担当の方はお願いしたい。
五味	インカレロングの女子選手権の競技者数を40人から30人に削減する案について、これも以前アンケートを取らせてもらったが、議論が深まるかと思うので、ここで賛成派と反対派の意見を聞きたい。議論が深まってから多数決を取ることとする。もし議論が紛糾して決議をするのには未熟ということになった場合は、この決議は次回総会に回すこととなる。アンケートの回答大学23大学中、女子選手権競技者数を30人へ削減することに賛成の大学が15校、40人のままにすることを求める大学が8校という結果になった。賛成理由としては、男女比に揃えるのが良いという意見と、今の40人は多く、下位層の女子が走り切れていないという現状を考えると、30人が妥当ではないかという意見があった。反対理由としては、選手権の人数が10人減ることはモチベーションをそぐという意見、ミドル・スプリントの競技者数に合わせるといったら、ミドル・スプリントの女子選手権の人数を40人にすべきだという意見、男女比は変化するので、それに逐一对応させるのはおかしいのではないかという意見、30人に減らすことでエリートが一人になってしまう地区も出るのではないかという意見が挙げられた。今の意見を聞いて、自分たちの大学の意見の補強や、自分たちの意見とは異なる立場に対する意見等あればお願いしたい。
村瀬	渉外の人はこの女子選手権競技者数について、実際に幹事会の議論には加わっていないので分からないこともあると思う。そういう分からないことの質問でも良い。
橋本	京都大学の橋本です。意見ではなく質問だが、男女比を考慮するというときに過去の男女比といったものも考慮したのだろうか。現在学連の加盟員数は増えていると思うが、ずっと男女比が2:1で推移してきたから競技者数の比として2:1を採用したのか、それともたまたま今年が2:1になっていたから2:1を採用したのかということを知りたい。
新粥	昨年度と今年は男女比が2:1で、もっと前に関してはむしろ女子の方が少なかったと

	記憶している。どちらかという、現在女子の方が増えている傾向にある。
橋本	分かりました。
小林	実践女子大学の小林です。議事録を読ませてもらって、インカレミドルの女子選手権の競技者数を30人にすると決めた際に、ロングの競技者数に合わせて40人に合わせるという案が出たが、その案は簡単に却下されてしまったように思える。なぜ簡単に却下されてしまったのかが分からない。
五味	去年の3月の総会の決議で、ミドルの人数を決める際に、各加盟校に対してミドル選手権の人数の案として男子:女子が60:30、80:40、ロングと同じ60:40を提示したが、多数決の結果ミドル選手権の競技者数は60:30という結論になっている。ロング選手権の60:30を幹事会として提示する理由は、男女比が2:1であるということ。同じ2:1でも80:40としない理由は、運営に対する負担と隔離時間の増加などの競技者の負担があるからである。
小林	ありがとうございます。
久野	他に質問はあるか。
鈴木	お茶の水女子大学の鈴木です。男女比が2:1ではなく、今後増えてバランスが崩れたら競技者数は変更されるか。どういう状況になれば競技者数は変更されるか、男女比がどこまで崩れたら変更するのか。
五味	個人的な意見になってしまうかもしれないが、どこまで男女比が崩れたら競技者数を変更するかは、今の自分たちの学連が決めるというよりも、将来男女比が崩れて、競技者数の比がおかしいと思うようになった学連の人が変更してくはずである。どれくらい男女比が崩れた時に競技者数を変更するか、という質問には、将来の加盟員、幹事会が競技者数に疑問を持ったときと答えられると思う。
有賀	早稲田大学の有賀です。話を聞いていると男女比2:1にこだわっていると思うが、どちらかという、60人と30人という数字の方が大事だと思っている。男女比が2:1なのは理解したが、これから先加盟員が増えた時に競技者数が60:30のままだと門が狭くなるわけだから、運営の負担になるということはあるが、2:1という比率を考慮しながら競技者数自体をもう少し増やしてもバランスは取れるとは思っている。
村瀬	それは現時点での話か、それとも将来についての話か。
有賀	現時点では、60:30という競技者数が一番良いバランスだということは理解したが、
有賀	これから先加盟員が増えた場合は、先程言ったような体制を取るのも一つの考えなのではないかと思う。
小泉	そのことに関しても、先ほどのお茶の水女子大学に対する回答と同じことが言える。加盟員数が増えてきて、このままでは選手権を走れる人数が少ない等と将来の学連が思うかどうかで決まると思う。
田中(基)	学連というのは、幹事だけではなくて、加盟員も含んでいて、加盟員の意見を拾うためにも目安箱を設置したりしている。積極的に加盟員から意見を出せる環境になれば

	自然と良い方向に変わっていくのではないかと思う。
鈴木	お茶の水女子大学です。議論が終わったらロング選手権競技者についての文章が作成されると思うが、ロング選手権競技者数は男女比で決まり、何らかの異議があった場合には学連で考慮し、変更がいつでもできるということが書かれるのか。
五味	基本的に学連の規約というものはいつでも改正ができるものである。発議があって、総会の決議が取れたならば毎回更新されるものなので、規約の中にわざわざ規約の改正が可能であるという文言は書かれない。また、現在男女比が大切だという議論になっているだけで、将来の学連が男女比ではないもっと違うものを大切にするかもしれないので、そのことも規約には書かれず、規約に記載されるのは競技者数のみとなる。
鈴木	分かりました。
久野	他に質問はあるか。
五味	反対意見の大学の中で、特に意見を言いたいというところがあれば是非発言してほしい。
木下	金沢工業大学の木下です。男女比にこだわっているのは分かる。男女比が2:1だから競技者数を60:30にするのではなく、加盟員に対する選手権競技者数の比率も大事という意見もあったので、加盟員に対する競技者の比率と男女比を加味した計算式を作って毎年競技者数の数を変えたらどうだろうか。
五味	具体的にはどういうものか。
木下	例えば、加盟員の10%が選手権を走るべきということであれば、男子加盟員総数が100人だとした時、男子選手権競技者数は10人となり、もし男女比が2:1だとしたら女子選手権競技者数は5人となる。このような考えはあまり良くないのだろうか。
村瀬	毎年選手権競技者数が変化すると、計算が大変になるということも言えるが、競技者数が大幅に変わる可能性が生じ、運営側にとって毎年不安定な状況を作ることに繋がる。ある程度競技者数は固定しておいて、何か問題があれば随時変えていくという形の方が望ましいと考えている。
小泉	そもそも選手権のコースは学生一位を決めるというもので、それが流動的になるよりは、固定して60人が戦う場とした方が良いと考えている。それに疑問があるならば目安箱等に意見を言ってもらい、発議するという手順を踏んだ方が良い。
田中(基)	スポーツの世界では、上位何%が選手権を走るというのではなくて、上位何人が選手権を走ることが普通であると思う。上位何%が選手権に出場できるということにすると選手権の意味自体が薄れると考える。
五味	その考えは、今までの幹事会や総会では出ていない意見であると思うので、この意見が今否定されるかどうかは別問題であるが、個人的な意見としては、上位何%の人全てが必ず選手権者相当かどうかは疑問が残る所だと思う。加盟員が倍に増えたからといって、選手権者相当が倍になるかどうかということは議論がなされるべき部分と考える。今ここで競技者数の60:30案が可決されると、次回総会で規約の文言を承認することとなる。文言が承認されないと規約は成り立たないので、来年のインカレロング

	<p>の競技者数を男子 60 人, 女子 30 人とするのであれば、次回総会で文言が承認され、規約自体が承認される必要がある。だから、来年のインカレロングの競技者数を変えるには、今回総会で 60:30 案が承認される必要がある。今回総会で急いで決議を取ろうとしている理由は、来年のインカレロングの競技者数に間に合わせるためには、今回で決を取る必要があるからである。</p>
小泉	<p>どうしても今回総会では決められない、もっと話し合いたいということであれば、どこかに臨時総会を入れて決議を取るか、もしくは来年は男子 60 人, 女子 40 人のままということになる。</p>
五味	<p>ひとまず、今回総会でこの 60:30 案について決議して良いか、それとも議論を深めるために各大学に議題を持ち帰ってもらって次回総会で議論、決議をするべきかどうかについて聞きたい。</p>
橋本	<p>質問なのだが、次回の総会で 60:30 案を決議する際に、競技者数を 60:30 に変更することになった時のために予め文言を作成して、その文言も同時に承認を取ることとはできないのか。</p>
五味	<p>それも実は考えていていた。もしここで決まりきらなかった場合、次回総会で 60:30 案の決議と、規約の文言の承認を同時にやってしまうことは考えていたが、それはあるべき姿ではないと思う。基本的な形としてはここで決議を取りたい。</p>
久野	<p>今回総会で、競技者数を 60:30 にする決議を取ることに賛成の大学は挙手をお願いしたい。(→10 大学挙手) 決議を取ることに反対の大学は挙手をお願いしたい。(→21 大学挙手)</p>
五味	<p>ではここでは決議しないということとする。先ほど言ってもらったように、想定としては、次回総会で競技者数を 60:30 にするのか、あるいは他の数字、他の決め方にするのかについて決議を取り、その時に同時に規約の文章の承認も取ることになるかと思う。</p>

7. 渉外に関する注意	
－発言内容－（敬称略）	
久野	渉外に関する注意について、担当の方はお願いしたい。
新粥	各大学大会開催の際に後援申請を出してもらっていると思うが、学連の後援に関する規定 [※] の中には、後援申請を承認した大会を主催する大学は、大会後2ヶ月以内に報告書を事務局に提出しなければならないという記載がある。ここ2年では数件しか事務局に来ていないので、後援申請を承認した大学については報告書の提出を徹底してもらいたい。また、幹事会内で各大学がどのような内容の渉外活動をしているか情報共有をしようという話があがり、報告書に渉外活動について書いてもらうという意見が出ている。それに関しては、幹事会内で意見をまとめてフォーマットの案を作ると思うので、その際には検討をお願いしたい。提出してもらった報告書を公開するかに関しては、もう一度各大学に確認を取らせてもらう。
五味	<p>以上が大会渉外に関してであったが、練習会や合宿の渉外について、練習会や合宿を行う際は必ず申請書を出すということになっていると思うが、自分の所属する地区学連と練習、合宿が行われる地区学連両方に申請書を確実に提出するようにお願いしたい。今回インカレロングのモデルイベントのテレインで渉外問題が発生したが、学連全体で加盟校の渉外に対する意識が低下しているということが今回の問題に繋がったのではないかと考えている。オリエンテーリングは地元の方の協力があって成立しているものであり、山は自分たちのものということは絶対にないので、渉外に対してより責任をもってほしいと考えている。ここにいる渉外の方はもちろんだが、書類の提出や、指定された駐車場を使うとか、私有地に入らない等、渉外に対する意識の徹底をお願いしたい。</p> <p>※ 学連の「後援に関する規定」より抜粋 第9条 事業主催者は事業終了後2ヶ月以内に報告書を事務局まで提出しなければならない。</p>

8. 各部局報告	
・ 会計	
—活動内容—	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度インカレミドル・リレーの黒字の受付 ・ 今年度インカレスプリント・ロングの運営資金の貸付 ・ 今年度賛助金の受付 ・ 事務局の家賃の支払い ・ 幹事会に出席する理事・幹事の宿泊, 交通費の支出 	
—今後の予定—	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 加盟金の受付 ・ 今年度インカレミドル・リレーの運営資金の貸付 ・ 地区学連への賛助金のフィードバック 	
・ 事務局	
—活動内容—	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 加盟登録・追加登録・加盟費の請求 ・ アイプリオ社への返答 ・ JOA との連絡 ・ 加盟員名簿の作成 ・ 後援申請の受付 ・ 賛助会員名簿の受付 	
—発言内容—（敬称略）	
新粥	<p>JOA に毎年払っているお金の中に、自賠責保険の保険料が含まれている。今回のインカレでも使われているが、大会中にもし何かがあって階段やあぜ道などを壊してしまった等という場合に、手続きをすればほぼ 100%修理費用が返ってくるといった保険があるので、今後は後援申請をしてもらった大会の実行委員会に保険の案内をする。もし後援申請の承認が出たのに保険の案内がされなかった場合は、事務局に連絡をしてほしい。また、事務局のメールアドレスについて、時々事務局にメールを送ったけれど反応が一切ないということが起こっているようだが、それに関しては、現在事務局が使用しているアドレスが非常に老朽化していることが原因となっている。事務局のメールアドレスは、基本的にファイルを添付すると届かない、また送り元には送信失敗の通知が来ないで、送信が完了したという表示になるのに事務局の元には届かないということがある。それに関しては今後対応を考えるが、一切事務局の反応がない場合は考慮をお願いしたい。1 週間経って返信が無く、もう一度メールをしても返事が無かった場合は、地区学連幹事長を通して連絡してほしい。</p>
・ 事業部	
—活動内容—	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 6/6(土) 第 1 回幹事会の宿及び会場準備 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/22(火)第2回幹事会の宿及び会場準備 ・ 10/3(土)第1回総会会場準備 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報部 	
<p>－活動内容－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回幹事会議事録の作成 ・ 学連広報誌「いぶき」今年度第1号, 第2号の発行 ・ 学連ホームページ、Twitterの管理 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渉外部 	
<p>－活動内容－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10, 11月分の矢板地区の回覧 	
<p>－発言内容－ (敬称略)</p>	
橋場	<p>現在、矢板・日光地区の練習会届や学連への申請・地図購入等が少しわかりにくいのでは と思い、改良しようとしているところである。今は構想段階だが、現在地図申請時に山川 氏宛に送っている所を、学連宛に一本化しようと考えている。より良い申請方法にするた めに、今後渉外の方にアンケートを取るかもしれないので、その時は協力してもらいたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及部 	
<p>－活動内容－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観戦ガイドの作成 	

9. 地区学連報告
・ 北東学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/15(土), 16(日)北東学連スプリント・ロングセレクションの実施 ・ 8/17(月), 18(火)夏合宿の開催 ・ 9/20(日)北海道大学大会の開催 <p>—今後の予定—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/18(日)東北大大会の開催 ・ 10/25(日)岩県大会の開催
・ 関東学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/2(木) 第1回関東学連総会の開催 ・ 5/23(土)第1回関東学連臨時総会の開催 ・ 5/24(日)関東学連ペア0大会の開催 ・ 6/21(日)関東インカレ兼ロングセレクションの実施 ・ 7/4(土) 第2回関東学連総会の開催 ・ 8/23(日)スプリントセレクションの実施(京葉0Lに委託) ・ 9/8(火) 第2回関東学連臨時総会の開催 ・ 9/9(水) 関東学連新人戦(雨で中止) ・ 規約改正(ロング・ミドルセレ、スプリントセレ及び推薦に関する規約、加盟に関する規約) →日本学連総会においても関東学連の規約改正について全会一致で承認 <p>—今後の予定—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/10(土)第3回関東学連総会開催予定 ・ 12/20(日)関東学連ミドルセレクション実施予定(北東、北信越学連と共同実施)
・ 北信越学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/11(土), 12(日)北信越交流会の開催 ・ 7/11(土)北信越学連総会の開催 ・ 9/5(土), 6(日)北信越合同合宿の開催 ・ 9/5(土)北信越学連総会の開催
・ 東海学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/20(土), 21(日)スプリントセレクション及びロングセレクションの実施 ・ 8/22(土) 第1回東海学連総会の開催 ・ ミドルセレクション実行委員会の立ち上げ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 関西学連
<p>ー活動内容ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/23(土). 24(日) 合同新歓合宿の開催 ・ 6/21(日) 関西インカレ兼ロングセレクションの実施 第2回関西学連総会の開催 ・ 7/5(日) スプリントセレクションの実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中四国九州学連
<p>ー活動内容ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スプリント・ロング選手権出走者の決定（セレクションが開催できなかったため議論により決定）

<p>10. 次回総会について</p>
<p>3/14(月)に開催。今年度インカレミドル・リレー後夜祭翌日。</p>